

2020年 英語教育が変わります



これからの学校の英語教育 ~新学習指導要領より~

小学校
中学年

週1コマ
年間
35時間

小学校
高学年

週2コマ
年間
70時間

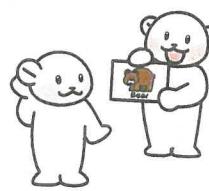
中学校

週4コマ
年間
140時間

高等教育

小学3年生で英語の授業がスタート!

活動型の授業が実施されます。
英語の早期学習を開始し、「聞く」・「話す」を中心にした
コミュニケーション能力の素地を養います。



※1 指導語数
※1 学習内容目安
※2 到達目標目安

6000～7000語程度

CEFR
A1程度

小学5・6年生で英語が正式に教科化! 通知表に「英語」の欄が加わります。

読み書きも含めたコミュニケーション能力の基礎を養います。正式に教科化される
ということは、国語や算数と同じように成績が付けられることになり、通知表には「英
語」の欄が増えます。

例 「書く」の目標：自分のことや身近な事柄について、
簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。

8000～16000語程度

CEFR
A2程度

中学校では授業は全て英語! 習熟度別にクラスが分かれます

中学校の英語の授業は英語で行われ、授業内で原則として日本語が使われることは
ありません。短い新聞記事やテレビのニュースなどの概要を伝えるなど、身近な話
題について英語で理解し、情報交換し、表現できる力を養う授業が行われます。
さらに、求められる4技能（聞く・読む・書く・話す）のうち、スピーキング（話す）
はその場で応答を考えなければならないことから、自分の意見を具体例や論拠をも
とに即時に発表できる力が求められます。

2022年度都立高校入試には英語スピーキングテストが導入される予定です。

18000～25000語程度

CEFR
B1程度

CEFR
B2程度

中3で英検3級～準2級程度

高3で英検2級～準1級程度

高校では発表・討論・交渉などの 高度なコミュニケーションを学びます!

高校では授業が英語で行われることはもちろん、英語を通じて情報や考えを的確に
理解し、適切に伝えるという高度なコミュニケーションを学ぶことになります。

例 ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、
社会的な問題や時事問題について課題研究したことを発表できる。

CEFR(セ フ アール)
とは、国際的に広く
認められた語学力を
あらわす指標のこと
です。
新学習指導要領の
外国語教育における
目標基準の参考
になっています。

中学生の
現状と課題



調査結果① 中3生のうち国目標レベル取得生徒は36.1%に留まっています。

○中3生のうち、国の目標である英検3級程度以上(CEFR A1上位レベル以上)を取得 →36.1%
または相当の英語力のある生徒の割合は…

参考：「平成28年度英語教育実施状況調査」(中学校高等学校関係)

調査結果② 英語力を付けるには、まずは英語を「好きになる」ことです。

○小学校のときに「英語が好きだと思っていた」生徒ほど、テストスコアが高い結果となっています。
○CEFR A1上位レベル以上のテスト結果だった中3生のうち、小学生のとき「英語を好きだと思っていた」生徒の割合は…
「話すこと」の結果では→A1上位の63.0%「聞くこと」の結果では→A1上位の65.0%

参考：「平成28年度英語教育改修のための英語力調査報告書」

聞く、読む、書く、話すの4技能をしっかり学べる
プリンス英米学院なら教育改革にも対応できます!!

興学社学園グループ

プリンス英米学院

prince-eibei.jp

プリンス英米学院 検索

プリンス英米学院のWEBサイト
でも英語教育に関する最新
ニュースについて更新中です。
ぜひご覧ください！

